

WORK MILL

共創空間読本

vol.3

特集 社内共創

P02-03 社内共創考
P04-05 “Sea” RENEWAL OPEN
P06-07 “Sea” RENEWAL OPEN EVENT

P08-09 コミュナネ1年生
P10-11 みんなで共創できるもん
P12-13 編集者の胸の内

P14-15 “bee” 新装開店
P16-17 共創空間トピックス
P18-19 共創クエスト

okamura

CONTENTS

10

80

我々は、進化している。

撮影=中村 年孝(表紙・裏表紙)

最新情報はウェブサイトをチェック!

WORK MILL

共創



発行 株式会社オカムラ
編集 豊田 麻衣子
重松 伸
発刊日 2024年8月

YDCD27-471

社内共創考

2020年、コロナ禍でオフィスに人が集うことさえ制限されたあの頃。
関西支社で運命の出会いを果たした六車文明と岡本栄理。
そんな二人に、「社内共創」について伺いました。

撮影=中村 年孝 取材・執筆=豊田 麻衣子



わたしが、社内共創せなあかんぜよ！

岡本（おかも） オカムラに「共創空間」が誕生してからこれまで、私たちWORK MILLは、「一心不乱に「社外」との共創活動を推進してきました。ところが、ふと立ち止まって、これまでの活動を振り返ってみたら、「そもそもオカムラ社内に対して、共創の種まきをやってなくない？」って。共創のスタートとして、外から新しい風を呼び込むために社外との窓口になるのは大事なことです。だったら次は「その風をもっと社内を広げたいな」って。また、最近お客様から「組織風土を改善するために、社内共創空間を創りたい」というご要望をいただくことも多くなり、私たちの想いとお客様のニーズが一致しているなど感じて、ますます「社内共創」に注目するようになったんです。

六車（むぐ） あえて「社内」にね。

岡本 新規事業やイノベーション創出の種になることももちろん大事。そしてそういった土壌づくりのためは、まず「組織風土をよくする」ことが何より大事であると感じています。オカムラは、まずおソトに目を向けただけで、企業の実実は「おソトがどうこの前に、まずはウチからだよ」って。でも社外と繋がって初めて社内に変化が起これると思うんですけどね。

六車 で、どうして僕が引きずり込まれたの？

岡本 これまでは、企画も事前調整も当日の進行管理も、全て「自作自演」でやってきたんだけど、よりハイレベルなことを提供したいと感じていて何か新しい手法を取り入れたいと思っていたという一言に尽きる。コロナ禍の二〇二〇年、普段からお客様のオフィス構築のコンサルティングを手掛けているむぐのワークショッップの腕前を見て、「あ、これや」とピンときた。発想のキレや進行管理が抜群だったんですよ。

六車 どの部分を見てそう思ってくれたの？

岡本 むぐの得意技は「構造化」。物事を俯瞰で

見て、どういう要素を加えればよくなるかを考えることができる人。そこが素晴らしいなと思いました。私は「出たとこ勝負！」という感じなので、真逆を行く人だな、と。

六車 確かに笑。というか、おかもと僕の関係は「補完関係」にあると思うんですよ。フレームワーク（構造化）は僕の得意技。お客様から最良の発想を引き出すために、こだわって勉強を続けてきました。だけど、落とし穴もあるんです。フレームワークは、フレーム（型）を埋めていく作業。抜け漏れなく作業を進めることで、容易に平均点以上の回答に導くことはできるけど、既成概念を打ち砕くような革新的なアイデアの創出には至らない。何より、参加者自身が無意識にこれまでの成功体験や経験に思考を支配されてしまう傾向がある。だけど、そこに、おかもが奇想天外なアイデアをぶつけてくる。おかもの言動はフレームにはまらない。はみ出しまくる。フレームを勢い良く飛び越えてくる。それをフレームに落とし込むのがこれまた…。

岡本 新しい金型を作るのを、面倒臭いとか思っていないでしょうね？

六車 そーきたか…と。楽しいですよ。自分にはない視点やアイデアが新鮮だと感じています。

岡本 むぐのストライクゾーンを広げてる感じかな。

六車 最悪にやばいボールはパスするけど。

岡本 そういう意味でいうと、二人でやってるフレームづくり自体が「社内共創」じゃない？

六車 「0-1」を生み出してるわけだから。

六車 うむ。共創とは、一人では生み出せない価値を、共に創り上げること。単なるコラボではない。真の共創を、オカムラの共創空間で実現していきたいよね。

岡本 もっと、社内でもね。

六車 そのために、どの部門にも、雑談と相談が

できる人が欲しいなと思っていて。その先に「これってどうだっけ」ということを話し合える「場」を創りたい。今までは飲み会やランチ会といった「個人の努力」で補ってきたことを、共創空間とそのコミュニティを活かしてやっていきたいな、と。その方が、多様で多彩なアイデアや手段が集まって、解決のスピードも早いと思うんだよね。

岡本 うんうん。ところで、「社内共創」の必要性って、どう考える？

六車 うちの社長がよく「会社の課題は部門と部門の間にある」と言っているけど、「部門」って通常業務を流すために作られているので、何か新しいことを生み出そうと思うなら、このスキームに乗っかってるだけではダメなんだよね。おソトに出て自部門を眺めたり、他部門の発想を取り入れたりすることで、景色は変えられると思うんです。そういうことに気付くために、「社内共創」の場が必要だと思う。

岡本 私は「社内共創」の場で、共創をカジュアルに楽しんで欲しいと思ってる。あえて遊びや余白を創り出して、普段のビジネスライクなスタイルとは真逆の思考や行動変容を巻き起こすのが共創の醍醐味だから。それに、共創の場では参加者全員がフラットな関係でいられるのも魅力でしょ。肩書きとかすつとばして、人と人として接することができる。そういう一つ一つの繋がりが、仕事だけではなく、私の人生そのものを豊かにしてくれていると断言できる。

六車 そうだよな。いつものやり方をしていけば、失敗はしないけど、それは現状維持でしかなく、未来への希望がないじゃないですか。「社内共創」って、会社を豊かにするための行動様式と言えるんじゃないかな。

うん、うまいこと言った！



働き方コンサルティング事業部
ワークデザイン統括部
コンサルティングディレクター

六車 文明（むぐ）



働き方コンサルティング事業部
ワークデザイン統括部 兼
WORK MILL統括センター
コミュニティマネージャー

岡本 栄理（おかも）



④ 船形ビッグカウンター

海に浮かぶ船のような大きなカウンター。コーヒーメーカーや冷蔵庫を内蔵しています。懇親会では素敵なバーに大変身！このカウンターを囲んで語り合きましょう。



⑦ 移動型「まちライブラリー」

手放したくないけれどシェアしたい本を皆さまから集め、「本」というツールで共創を生み出す取組み「まちライブラリー」を導入。移動型なので、これを持って皆さまの所にお邪魔することがあるかも！

共創空間Sea号
安全のしおり

波打ちまざり、つながる場

2015年、東京にオープンした共創空間「Sea」の、その後の、成長を支えた「Sea」の共創空間が開設され、それ以来、様々な活動が行われてきました。その中でも、特に「Sea」の共創空間が、皆さまの活動の場として、活用されています。

コンセプト

1. シアリング空間で、様々な活動が行われます。

2. 様々な活動が行われます。

3. シアリング空間で、様々な活動が行われます。

4. シアリング空間で、様々な活動が行われます。

5. シアリング空間で、様々な活動が行われます。

参加員情報

1. 参加員情報

2. 参加員情報

3. 参加員情報

4. 参加員情報

5. 参加員情報

6. 参加員情報

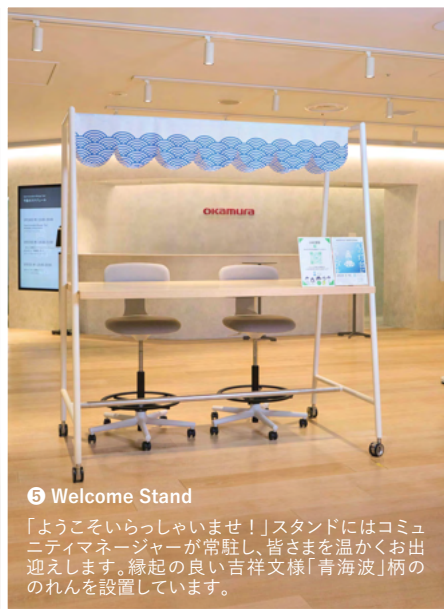
7. 参加員情報

8. 参加員情報

9. 参加員情報

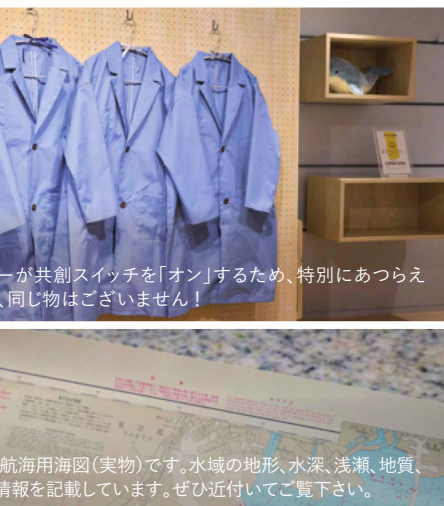
10. 参加員情報

⑩ 安全のしおり / 皆さまへお願いしたいこと・大切なお知らせを網羅しています。



⑤ Welcome Stand

「ようこそいらっしゃいませ！」スタンドにはコミュニティマネージャーが常駐し、皆さまを温かくお出迎えします。縁起の良い吉祥文様「青海波」柄のれんを設置しています。



⑧ スイッチオンコート

コミュニティマネージャーが共創スイッチを「オン」するため、特別にあつらえたコートです。この世に、同じ物はございません！

⑨ 海図

「Sea」の近海「東京湾」の航海用海図(実物)です。水域の地形、水深、浅瀬、地質、港湾、灯台などの重要な情報を記載しています。ぜひ近付いてご覧下さい。



Open Innovation Biotope “Sea” RENEWAL OPEN

オカムラ・WORK MILL (ワークミル) プロジェクトが運営する共創空間 Open Innovation Biotope “Sea”が、場所と装いを一新！メンバーの想いがたくさん詰まった、こだわりの空間をご紹介します。

① 廃材アートウォール

大型ビジョンの左右の巨大ボードは、椅子の工場である追浜工場で出た廃材を活用したアートウォールに。オカムラのDNAを来場者に伝えます。

撮影=中村 年孝



③ Seaカーテン

伊豆にある「かぜつち模様染工舎」さんに、「Sea」のコンセプト「波打ちまざり、つながる場。」を藍染で表現してもらい、ベストオブベストなフットスポットが完成しました！



② 灯台

灯台とは船舶が安全に航行をおこなうために必要な「航路標識」の一つです。「Sea」の舞台は海。参加者の皆さまに安心して安全に楽しんで頂ける空間であることを誓い、灯台を設置しました。

SESSION 2

社会とつながり共創のともしびをとます

本質的なサステナビリティ活動のあり方とは？

私たちが暮らす地球には、人口減少や食糧難、気候変動など、一人では解決できない複雑な課題が次々と発生しています。しかし、何から始め、どう取り組めばいいか、まだまだ手探り状態の企業も多いのではないのでしょうか？

さて、最近、単に廃棄物を減らすだけではなく、そこから新たな価値を生み出そうとする動きが増えています。これからの社会が目指すべきは「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」。

今回は、サステナビリティ活動の「プラットフォーム」として、カラフルに活躍するお二人にご登壇いただき、活動の本質に迫りました。

Open Innovation Biotope “Sea”
コミュニティマネージャー

宮野 玖瑠実



「単なる宣言や掛け声だけでは物事は進まない」という東森さんの言葉に心を打ち抜かれました。企業・行政・生活者を巻き込み、多様な力を結合させ、地球の未来を見据えた「付加価値」を生み出し続けているお二人の実行力に終始圧倒されました。



お互いの活動をたえ合う姿が印象的でした！



革新的な価値の創造・提供を追求するお二人



期待の大型新人 宮野 玖瑠実



国立大学法人宮崎大学准教授
日本GXグループ株式会社
共同CEO

細目 圭佑さん



霧島酒造株式会社
グリーンエネルギー部
エネルギー管理課 課長

東森 義和さん

SESSION 3

身近なモノから共創のともしびをとます

一人称から始める活動が生み出す共創のうねり

面白いと思ったこと・きっと皆に価値をもたらすと思ったことは、自ら手を動かしてどんどん進めていきます。時にはうまくいなくて悔しい思いをしたこともあったはず。それでもやると決めたことを心から楽しみ、確実な共感者を生み出していくその秘訣を伺いました。後半のワークショップでは、身近なモノから共創を生み出し続けているゲストが、参加者にお茶やスイーツを振る舞いました。本を用いたワークショップでは、帯作りに挑戦！おススメしたいポイントや思いを書き込んで、“Sea”の新たな取組である「まちライブラリー」を創り上げました。

WORK MILL統括センター
コミュニティマネージャー

岡本 栄理



仕事ではなく、個人が「勝手活動」としてやり始めたことが、社内に良い影響を与えていく様子が印象に残りました。組織には、「やりたい」と声を挙げた人を、自由に上手く泳がせてあげる仕組みが必要です！



三人揃って決めポーズ！愛嬌もたっぷりです！



ワークショップの様子



共創寺の住職 岡本 栄理



日本電気株式会社
(エンゲージメント推進担当)
Sweets&Suites代表

西山 勇太さん



ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社
建築設計本部（さこすて担当）係長
さこすてチーフプロデューサー



株式会社TeaRoom Tea事業部 部長
株式会社THE CRAFT FARM 経営企画
統括マネージャー兼任

梶原 康太さん



当日の様子は
こちらから

Open Innovation Biotope “Sea”

RENEWAL OPEN EVENT

心の灯台にともしびを

2024.5.16 (木)

時間 13:00-20:00

会場 ホテルニューオータニ ガーデンコート3F
Open Innovation Biotope “Sea”

取材・執筆＝豊田 麻衣子



OPENING SPEECH

取締役 専務執行役員
オフィス環境事業本部長 兼 営業本部長

河野 直木

WORK MILLから、社内外を巻き込んだ共創をもっと活性化させたいという想いを受け取り、会社の顔ともいえるショールームのエントランスに“Sea”をリニューアルしました。そして、VUCAの時代に、様々な悩みや課題を抱えている皆さまの心に「ともしび」をとし、目指す針路をほのかに照らしていきたいという今回の企画に対する強い決意にも胸を打たれました。共創空間のコンセプトやテーマ、設計を進めるにあたり、社内外を問わず、様々な人たちとの知識やアイデアのまざり合いがあったと伺っています。場づくりの段階で、既に多くの知と知の引き合わせや結合が起こっていることを、大変喜ばしく感じています。さて、最近お客様から「社内共創が足りないんだ」というお悩みをよく伺います。ハイブリッドワークが浸透し、はたらく時間や場所を自由に選択できるようになった。その結果、社内でのコミュニケーションがどんどん減っている。さらに、イノベーションを創出するための知の探索ができる場が不足している。共創空間とは、そのような課題を総合的に解決できる空間であると考えています。オカムラは、「場」の創出のみならず、その「運用」についてもご支援いたします。



SESSION 1

自分の中にあるともしびを知る

「好き」を知り、「好き」と働く

誰の心にだって「ともしび」は存在する。このセッションでは、自分の心の中にともしびをとし続け、また、周りに対してともしびをくべ続けているお二人にご登壇いただきました。「ともしび」を、熱量・Will・やりがい・好きという気持ちなど、周囲をその気にさせてしまう「熱」のようなものと捉え、人間の持つ「熱」がどのように発生するか、その根源は何なのか、お二人それぞれの「哲学」に基づき、人生や自身のあり方に対する価値感や、どのように生きるべきか、何を大事にするべきかといった考え方の土台を伺いました。

WORK MILL統括センター所長
兼 編集長

山田 雄介



自らの「好き」に対し、一切の迷いなく前に進み続けるお二人に、激しく感情を揺さぶられました。物質的に満たされた時代にあっても、自信のなさや、働きづらさを抱えている人たちが豊かに働くことができる社会を共に創るエネルギーをいただきました！



We「WILL」we「WILL」rock you！



ほとぼしる想いと情熱に会場が魅了されました



NO PLAY, NO WORKを掲げる山田 雄介

コミュマネ1年生

新人コミュニティマネージャーのお悩み相談室

撮影=坂本 直樹 取材・執筆=豊田 麻衣子



電車が通るたび、大きな音が響く



看板メニュー「わらびパフェ」

濃厚なあんことバニラアイスが自家製わらびもちと交じり合って、こりゃたまら——ん味わいです

撮影地



※正統 福寿堂房信

「まずは館を召し上げれ」。一口食べるだけで「ああ、違う」と感じさせる職人の技がここに 있습니다。



はやく一人前に、なりたーい！

わかる——

あせる——



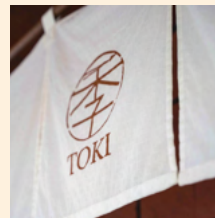
ここがなにわの田園調布、帝塚山か！

気持ちいいじゃねーか！



ちょっとちょーだい

もうっ！



茶寮 季 帝塚山 本店
〒558-0054
大阪市住吉区帝塚山東1-4-12
阪堺電気鉄道
姫松駅より徒歩5分



本店に「いらっしゃーい！」



Open Innovation Biotope “bee”
コミュニティマネージャー

井上 沙紀



Open Innovation Biotope “Sea”
コミュニティマネージャー

宮野 玖瑠実



Open Innovation Biotope “bee”
コミュニティマネージャー

山田 桃萌



コミュニティマネージャー
かくあるべし

宮野 私は一年前に営業から異動してコミュニティマネージャーになったんだけど、営業の時は知識も経験もないからお客様との関係性をあまり上手に作れなかったことに負い目を感じていました。だからコミュニティマネージャーになった時も、こんな何者でもない私と話してお相手を退屈させてしまふんじゃないかとためらってしまったことを覚えている！
山田 すごいわかる：私は営業を経て、今はショールームスタッフと兼任でコミュニティマネージャーをやっているんだけど、どういう位置付けで行動すればよいか…。

井上 めっちゃわかります！

宮野 営業時代って、お客様のニーズを叶えることこそが仕事だったけど、コミュニティマネージャーになってからは「私はこういうことをやりたいんです」って自分の想いを伝えるようにしてる。そうすると「あ、僕もこういうことをやりたいと思ってたんです」「じゃあ何か一緒にしましょう！」と話が繋がるなって。

山田 あ、それでいくと「思ったことを口に出していいのかな」っていう悩みがあります。営業の時って、自分の思ったことを表に出すことになぜかちゅうちょしてしまつた記憶があって、話をコミュニティマネージャーとしての自分に戻しますけど、そもそも、まだどうありたいか、どんな人を巻き込んで活動していきたいのかという想いが固まっていけない段階で、思ったことを気軽に口に出していいのか…。

は、自分なのか！

宮野 そうかも。これからは、お相手にとんでもない印象を残すくらい強烈な個性を発揮するくらいでもいいんじゃないかな笑

井上 確かに！先輩とか、みんな個性という名のハッシュタグが見えるもんね。それこそ「万博」とか「トークの達人」とか…。

山田 ほんとだ！

宮野 もっと、自分の好きなことを追求してもいいと思う！私なんか、自己紹介のスライドに「野望」を書くようにしてる笑

山田 ！

宮野 そうすると、意外とお申し出があったりするんですよ！新しい繋がりが生まれたり。

井上 「自分にハッシュタグを付ける」かー。

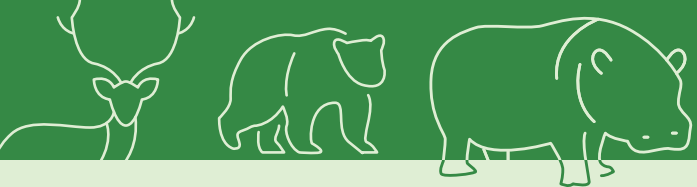
山田 好きなことはたくさんあるけど、それを発信しようと考えたことはなかったかも。

宮野 やってみようよ。誰かからお呼びがかかる存在になれたら素敵じゃない？

井上 コミュニティマネージャーは誰かと誰かを繋ぐ存在だし、そのためにはまず自分の魅力を発信していかないと！

山田 なんかわかったかも…！これからは、会場の皆さんに爪痕を残すような存在になれたらなって思ってきました！

宮野 いいことひらめいた！このメンバーでイベントできるんじゃない？「新人コミュニティマネージャーのお悩み相談室」ってイベントやろうか！
山田 & **井上** やろう、やろう♪



「動物園×はたらく」？異色のイベントはこちら！

2024.1.17(水)開催

ワークショップに集まったのは、オフィス環境事業本部 働き方コンサルティング事業部の空間デザイナーを中心とした34名。旭川市旭山動物園の坂東元園長(当時)が、来園者が動物園の中で(理由はどれあれ)仕事をしている姿を見かけることが増え、「動物園にはたらく場があってもいいんじゃないか」とひらめいたことが開催のきっかけです。「動物園ではたらく」ことによって、普段とはまったく違う思考回路を広げたり、モノの感じ方に変化が起きたりするのではないかと、オカムラに「挑戦状」が届きました。



結論とにかく楽しかった！
普段の仕事では、制約事項や、予算の都合を考慮しなければならぬことが多いのですが、このワークショップは全く別！
園長からの「オフィス創りのプロである皆さんに、制約や条件を設けず

私がこのワークショップを知ったのは、部のチャットです。
「動物園」なんて、オカムラとは全然関係がなさそうだし、仕事でも関係を持ったことがない。それに、あの有名な「旭山動物園」がテーマだなんて、さらに意味がわからない。
これは楽しそうだと思うって、即、参加を希望しました。
申し込みをしてからは、テレビで園長を見かけるたび、「この人が来るんだ」と少しミ〜ハー心が騒ぎました。
社内共創については、実のところ、全く理解してなかったんですが…。
「とりあえず、いっちゃえ」というノリで参加しました。

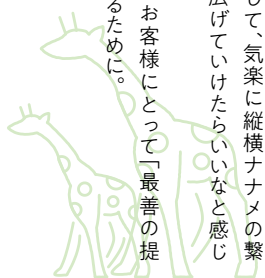


スペースデザイン部

甲木花梨

共創って、カジュアルだ！

自由な発想で提案をしていただきたい」というメッセージに基づき、参加者同士でぶつ飛んだ意見を交わし、自由に妄想をしまくることで、最高に楽しかった！
特に、誰かの意見に乗っかって、あーでもない、こーでもない、と盛り盛りのドリームプランを創り上げていく工程が、新鮮でした。
課題がカジュアルであったことも、よかったんじゃないかと思えます。
ワークショップの中身については、自分たちの提案した内容が、園長のご要望にお応えできたかどうかはわかりませんが笑。
個人的に旭山動物園に行ってみたいという想いもあり、実は、新婚旅行先に組み込もうと考えているほどです。
同じチームに、名古屋の共創空間のコミュニティマネージャーがいたのもよかったです。
実は社内の繋がりがりづくって、結構難しいんです。だから、こういったイベントを通じて、気楽に縦横ナメの繋がりを広げていきたいなと感じました。
全ては、お客様にとって「最善の提案」をするために。



オカムラ社内共創ワークショップ開催

「旭山動物園にはたらく場所を作ろう」



取材・執筆＝豊田 麻衣子



宮野 玖瑠実

この社内イベント、もともとは、社内に「共創」への認知や理解を高めようと始めた「勉強会」なんです。イントラネット上で呼びかけを始めたんです。

太田 悠樹



営業部門での実績を記事を見て、「興味ある人は連絡下さい」と書いてあったので、すぐ連絡しました。



宮野 玖瑠実

どういう所に興味を持ってもらったんですか？

太田 悠樹



単純に、面白そうだな、って。



宮野 玖瑠実

職場内に自治会的なチームがあるんですが、そこに「イベント委員会」というものがありまして、歓迎会や忘年会を行ったりしているんですが、この「勉強会」をイベント的にやろう、そして、どうせならハマにある三拠点を集めてやってみよう。



宮野 玖瑠実

どうやって見つけてもらったんですか？

太田 悠樹



ほんとにイントラネットをふらっと見えて。



宮野 玖瑠実

「巷で噂の共創勉強会」という異様なタイトルを付けていたからかな笑

太田 悠樹



で、勉強会は、宮野さんにお任せして、僕は懇親会の準備を担当することにしたんですよね。



宮野 玖瑠実

そうそう。勉強会の準備は「全ておまかせ」にされないように注意しました。全部御膳立てしてしまうと、自分事にならないんです。必ず各拠点に一人、キーマンを設置して、なぜこのイベントをやるのか、どういう想いでやっているのかを伝えるようにしました。

太田 悠樹



この勉強会で掘んだ繋がりを、人生そのものに生かしたいと思います。仕事に繋げることだけが目的ではない。結果的にそうなればいいとは思いますが、それがゴールになってしまうと、「共創」自体が面倒なものになってしまうから。これからも応援します！

いざ、仲間探しの旅へ

社内に共創の輪を広げよう！

みんなで共創勉強会

2024.5.20(月)開催

横浜に事業所を構える三拠点と合同で勉強会を開催しました。WORK MILLの活動や、共創を知る座学、オリジナルカードを使ったワークショップを行った後、参加者は、お互いの特性や強みが書かれたカードを引き、チームに分かれて、お題に沿ったアイデア紡ぎの議論を開始。普段の仕事上の付き合いだけでは伺い知ることのできないこだわりや想いを理解し合い、自分自身が他の人にどう受け止められているかを知ること、大いに刺激合っている様子が印象的でした。



情報システム部
フロントサポート課

太田 悠樹

息子に対抗して
ルービックキューブを始めた人。
「だいたい15分で揃います」

Open Innovation Biotope “Sea”
コミュニティマネージャー

宮野 玖瑠実



社内に共創仲間を
どんどん増やすぞっ！



オカムラは「WORK MILL(ワークミル)」の活動の一つとして、コンテンツメーカー『ノオト』との協業により「ウェブマガジン」を展開し、今話題になっている新しい働き方や、働く場、コラム記事などをご紹介します。編集をテーマに、仕事の進め方やアイデアの紡ぎ方、物の見方や捉え方などを語り合いました。



WORK MILL統括センター所長
兼 編集長
山田 雄介



有限会社 ノオト
編集者・ライター
鬼頭 佳代さん

—はじめに、メディアとしての「WORK MILL」の紹介をお願いします。

山田 「はたらく」を探索するリサーチメディアです。働き方にもはや正解は無く、一人一人が描かなければならない時代だからこそ、「組織」視点ではなく、「個人」視点でのさまざまな「はたらく」を取り上げようとしています。その中でも「キャリア・学び・共創」という三つのテーマを選定して、企画を立てています。

—編集会議の進め方を教えてください。

鬼頭 編集会議は、大きく二種類あります。まずは、隔週で行う「ネタ出し会議」。私たちの方から「WORKS MILL」という媒体にマッチするネタを提案して、その場で感想をいただいたり、意見を交わしたりしています。次に「改善・雑談会議」です。メディア全体を見渡して、改善すべき点やあらかじめ専用のチャットに投稿しておいた「ネタの種」について話し合ったりします。

山田 日々の暮らしの中で思いついたよしなしごとをメモしたり、リンクを貼っておいたり、「ふと見上げた空が美しいから、ラーメンが食べたくなった」なんて思い付きをチャットに事前に共有してみたり。

鬼頭 きちんとしすぎていないのがいんですよね。それこそ、飲み会での拾い話とか。言葉にするほどまで固まっていなくても、それを投げ合える場所ってすごく大事だと思います。

山田 そうそう。僕は、働き方改革という名の元で、組織から「余白」が消えてしまったように思うんです。「無駄なことをするな」という重圧を皆が背負っているというか。仕事の効率は高まるかもしれないけれど、創造性は高まらない。僕には、一見すると「遊び」に見える行為も、パフォーマンスや創造性を高めるための一つの手段であるという持論があって、そういう意味でも、鬼頭さんたちと面白い付きや突発的な意見を共有し合える手段を持つことは、企画者として、非常に大事だと感じています。

鬼頭 チーム自体の心理的安全性も高まりますよね。

—取材対象者を選ぶ際、人と、テーマ、どちらを優先されていますか？

山田 両方です。人から入る時もあるし、テーマから当てはまる人を考えることもある。

鬼頭 誰かにお会いした時はやはり、「ここを引き出したら面白そうだな」などと、自然と考えてしまいますね。あとは、オカムラの皆さんが「会いたい」と思ってくださるかどうかなという点も考えます。これから伸びていくような方を発掘できたら嬉しいな、と。「面白い」ではなく「面白そう」を追究しています。

—普段どのようなアンテナを立てて、情報を収集し、選別をされているのですか？

鬼頭 とにかくネタになりそうなものを無意識に探していると思います。また、「これ、みんな知らないさぞう」という感覚を大事にしています。どうしても、新しいことを世に出したいという想いがあって。万人に受ける正解がないことはしっかり受け止めて、世の中にはこういう選択肢がありますよ、ということを提案したいですね。

山田 僕の場合は、取材の目的地に至る周辺を意識するようにしています。道端にあるもの一つ一つまで感じ取りたいなって。路地裏をのぞいたり、建物を眺めてみたり。気になったこと、面白いと感じたことを頭の片隅に入れておくことが、後々ひらめきを生み出すこともあるので。

—情報を手に入れるために愛読している媒体などはありますか？

鬼頭 新聞ですね。その中でも、特に書評欄には各社が吟味に吟味を重ねた「とっておきの一冊」が掲載されていて、自分では絶対見つけられないような本が選定されているのがよくて。「別の誰か」の視点で大事なんですよ。

山田 そうそう。僕は、媒体といえるか…、一つは旅行で、もう一つは、漫画かな。漫画って、現実を飛び越えたストーリーやアイデアの宝庫なんですよ。発想・表現・構成が、仕事だけでなく、人生そのものに影響する場合

もあるほどです。

—最近自分の中で流行っているテーマはありますか？

鬼頭 「引き算」や「やめる」「休む」というテーマです。今担当している連載でも、「こういうことをやめたいんです」「どうしたらいいですか？」という問いかけをしてみたり。ほかにも、「遠慮なく休むにはどうしたらいいですか？」とか、「働きすぎをやめるにはどうしたらいいですか？」とか。私自身が「やめたい」ことを投げかけています。

—最後の質問です。記事をアップする際、何か「仕掛け」をすることはありますか？

鬼頭 タイトルやリード文を工夫していますね。例えば、手話などの視覚言語でのコミュニケーションが取りやすいよう設計された空間「デフスペース」を紹介した企画なんです。この記事は、「デフスペース」という言葉に初めて出会った人がネットで検索したときに読むことを想定し、冒頭で「デフスペースがどういうものなのか」といった基本を丁寧に説明しました。

山田 今後も「WORK MILL」の記事が、誰かの「働く環境を変え、働き方を変え、生き方を変える。」ことができるよう、ユニークな記事や発信を続けていきたいと思っています。

「面白い」ではなく
「面白そう」を追究する



取材・執筆=豊田 麻衣子

社内共創を推進するヒントが詰まった「WORK MILL」記事3選



趣味と仕事を重ねたら、役員を巻き込む変化が起きた 日水真理さんが富士通で始めた「スナックまり」の軌跡

#「自分らしさ」を描くには
#いくつものわたしを持つ生き方
#副業 #働き方



「いい加減」なほうがうまくいく!? みんなでつくる図書館「まちライブラリー」のコミュニティに見る個の力の活かし方(磯井純充さん)

#共創をデザインする
#変わる、会社・組織の「あたりまえ」
#コミュニティ



デフスペースって何? 視覚で世界を捉える人々の見える力を活かすスペース「5005(ごーまるまるごー)」を訪ねてみた

#コワーキングスペース
#ダイバーシティ #変わる、会社・組織の「あたりまえ」





メンバー紹介

新人コミュニティマネージャー二名が加入し、ただならぬ迫力がマシマシの“bee”。いざプロフィール写真の撮影になると、いつもどおり、とびきりひょうきんな“bee”が飛び出したのでした。

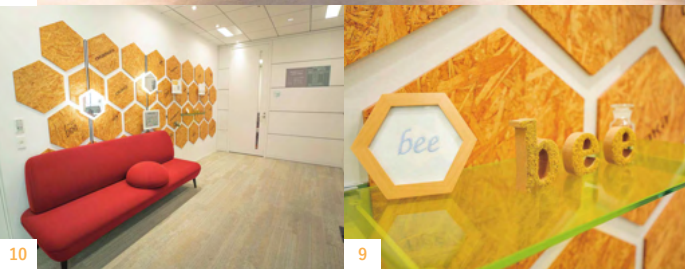
撮影=坂本 直樹 取材・執筆=豊田 麻衣子



新装開店



サヤカのひとりごと



1.アー写チックに撮影。山田さんの視線の先に、何があった？ 2.ディレクターの指示に応える4人。「太ももが限界です」 3.「いっせーの一で！」の指遊びが始まった。4.tonariで、“Sea”メンバーにTシャツを自慢中。5.tonariは時空を超える。6.オープンスペース。共創も、仕事も、休憩も、こちらでどうぞ！ 7.眼下に広がる絶景を鑑賞しながら、会話に花を咲かせましょう！「スナックみつばち」はまもなく開店予定です。8.ぎんぎらぎんにネオンがきらめくソファ席。撮影スポットとして、ご活用下さい。 9&10.受付スペース。“bee”といえば、ヘキサゴン！様々なヘキサゴングッズが皆さまをお出迎えます。ヘキサゴンの意味は、チェケラッチョ！



サヤカおすすめ
子どもたちから学ぶ、
誰もがワクワクする空間の作り方。
キーワードは「好奇心」？
(AIC国際学院×ビー×オカムラ)
はこちらから



共創とは、自分の持ち味、相手の持ち味を掛け合わせ、混じり合わせ、新たな「二」を創ることと見つけたり。
どうも！
コミュニティマネージャーの轟木です。
この一年の“bee”の動きを大急ぎで振り返ってみようと思います。
シリーズ化
せっかくの繋がりを、1回で終わらせてしまふの、もったいないじゃないですか。だから、あえて3回完結など、シリーズ化させたイベントを企画しました。
⑤ っかり共創
共創に興味はあるけれど、何から始めたらよいかがわからない迷える皆さまへお送りするイベントを実行。その名は「っかり共創をやっちゃいます！」。
社内で共創やイノベーションに鼻息荒く取り組もうとすると、「意識高い系の人」だとパリアを張られて、せっかくのモチベーションが台無しに。そんな甘酸っぱい記憶はありませんか？ 私たちは、「シュット」ではなく「ひょうきん」をモットーに、共創の関係人口(分母)を増やすための活動を推進しています。
⑥ 想企画
共創に必要な要素は、スナックとおソトとワークショップだと信じて疑わない私、轟木が、二〇二四年度実現するイベントはこれだ！
① 名物ママがいるスナックを創ろう！
バーじゃなく、スナック。ママに相談したり、ママが得意とすることを相談してみる。ふらっと立ち寄れる空間を創る。気持ち分ち合って、抱きしめ合って、心を繋げ、仲間になって、夕日に向かって走り出す。日々訪れる人々の人間模様や出会い、繋がりを面白がり、そこから何かを生み出したいと思います。
② おソトでもくもく妄想会議をしよう！
例えば公園とか、広場とか、鳥が鳴き、木々がざわめくお空の下で自由にモノを考えてみようかな。と。開放的な空間で、妄想やアイデアを口にして、「何それ！」って盛り上がりたいたい！遊牧民のように、あちこちをさすらいながら語り合える場を創ってみたい！
③ ワークショップで整おう。
グループワークって、ポストイットでアイデアを出して、「これいいやん」って話すスタイルが定番ですが、手作りの「どこでも共創キット」を生み出そうと企んでいます。ハサミと定規でパズルを創って、アイデアをのせて、一枚の「作品」を完成させるとか、まさに技術・家庭科・図画工作なんでもござれ。手を動かし、五感を刺激してから、モノを考えてみようよ！妄想をユニークに実現するのは、私の超得意技なので、二〇二四年度、やっちゃいます！

共創ある仲間が増えました

Open Innovation Biotope “Sea”
コミュニティマネージャー

前田 英里

私が
ご案内します



open
innovation
biotope
“Sea”

“Sea”では、社内に共創を浸透させるため、活動に共感してくれる「仲間探し」を始めました。

静かなる一匹狼

Open Innovation Biotope “Sea” 設計担当
ワークデザイン統括部 デザイナー

吉田 直人

僕が“Sea”のデザイン
をすることになった
のは、偶然なんです。
僕と岡本さんが所属する
「ワークデザイン統括部」が、
デザイン、コンサル、研究、
コミュニティマネージャーな
ど、事業部内のいろいろな
専門家が集まった組織で。
「分野を越えた連携から、新
しい価値を生み出したい！」
と活動しているんです。
で、「どうせなら同じ部署内
で進めてみたいね！」という
ことで、僕に矢が飛んでしま
した。
課題は多くありました。会
社の顔であるショールーム
の表玄関に共創空間を作る
なんて初めてのこと。
さらに、共創空間とショールームの機能が重なるレイアウトは、世の中にもあまり例がないものでした。
最終的にはテーブルやチェ



アなどの家具を可動式にするオカムラらしいアプローチで、ギャラリーや展示会、イベントなど、目的に応じて柔軟に使用できる空間に生まれ変わったと思います。
空間としては、ショールームのニートラルなデザインを踏襲しながら、“Sea”としての個性を持たせる必要があると思いましたが、共創のための特別な空間であることを感じられるようにしたかったです。
ですから、海洋プラスチックを再生したテーブル天板をRECYCLEDと制作するなど、ここを訪れた人にストーリーを語りたくなるデザインを意識しました。天板の制作そのものが外部とオカムラの共創といえるし、編集長の山田雄介さんと一緒に鳥羽の工場を訪問し、製作過程を「WORK MILL」の記事として発信することもできました。
社内外の様々な人と繋がりながらプロジェクトを進め、社会に発信していく、まさにワークデザイン統括部が目指す姿を一つ、体現できたと感じています。
竣工後、オブジェなどの装飾が加わり、様々な人のパワーが入り混じった空間になりました。まだまだアップデートしていくと思っています！

WORK MILL初の「共創アンバサダー」※誕生！

きっかけは岡本さんと同じ部署に勤務する「夫」です。夫が、岡本さんに「うちの妻は共創活動に向いている」ということをしこたま言い続けていたみたいなんです。でも、私は、岡本さんと話したことさえなかった。ある日、トイレで偶然彼女を見かけて「話すなら今だ！」と、岡本さんを飲みに誘いました。美大で空間演出デザインを学び、バックパッカーとして50か国を訪問した経験や、自分がこれまでに紡いできたたくさんの繋がりを生かして、「何か」を生み出してみたいということ、を、情熱的に打ち明けました。そこからは、とんとん拍子。六月からは、共創アンバサダーとして、“Sea”を支えています。自分に何ができるか、どういう役割を担うことができるかについては、まさに模索中なのですが、いろいろな人を巻き込んで、関わった人が「やってよかった」と言ってもらえるイベントを、まずは一つ実行しようと思んでいます。

※ 社内兼業の仕組みを使い、業務の週1日程度を共創活動に充て、仕事のあり方に共創を取り入れていくメンバー

さざ波を起こそう

大学院でソーシャルデザインを専攻していたことや、これまで一貫して、広義のキャリア（ライフ）の可能性を広げる仕事に従事してきたこともあり、“Sea”ではたらくことに、ワクワクしています。
「この人と出会わなかったら、こんなことできなかったな。」人生の大きな転機にはいつだって、思いもよらなかった出会いがあります。
来場者の皆さまから寄せられたあらゆる「願い（Wish）」に寄り添い、人と人を結び続け、それぞれの心に火をともしていく。まるで海中に飛び出る気泡のように、あちこちでポコポコと浮き上がり、さざ波を生み出すような場づくりをサポートしていきたいと考えています。
“Sea”を、「仕事」のためだけでなく、皆さまが「好き」で「得意なこと」を実現できる場として活用してもらうため、力を尽くします。
手作り看板など、趣向を凝らした演出で、皆さまをお迎えいたします！



共創アンバサダー
事業戦略部 CXデザイナー

甲斐 蓉子



コミュニティマネージャー
(by ATOMica)

渡邊 理恵



Cue
Open Innovation Biotope

シゲキ



ヒラメキ



ツナガリ



共創空間トピックス

名古屋、福岡、東京の
活動状況を報告いたします！

取材・執筆＝豊田 麻衣子

合言葉は「ツナガリ・シゲキ・ヒラメキ」

Open Innovation Biotope“Cue”のぶっちぎり三人組は

今年も、それぞれの使命に向かって、突っ走っています！



Open Innovation Biotope “Cue”
コミュニティマネージャー

久岡 伸功

遊び感覚を大切に「アイスブレイク」を研究中です。「アイスブレイク」は自己開示、他者とのつながり、自らの気づきを得るための仕掛け。この「アイスブレイク」を体験してから、共創のワクワクに触れると、「共に創る」ことへの意識変容が起きるのでは？いつもと違う目線、熱量の高さで共創活動に参加してもらいたいな、と思っています。新たな「アイスブレイク」で意識を変え、組織を変え、多彩な共創を生み出したいです。

Open Innovation Biotope “Cue”
コミュニティマネージャー

小倉 悠希

毎月第2水曜日に「Sustainability Lab.」を開催しています。サステナビリティって「自然と人が共生し、未来にわたって豊かに活かす」というシステムだと理解しているのですが、まだまだ本当の意味で「全社事」「自分事」にはなっていない気がしています。私は、とにかく「実践」がしたい。そのための力を、イベントや取材を通じて、せっせと溜め込んでいます。

Open Innovation Biotope “Cue”
コミュニティマネージャー

河田 佳美

引き続き「探究学習」をテーマに活動を続けています。子どもたちが自分のやりたいことを考えて発信する場をつくりたい。オカムラ全社の取り組みとなったプロジェクトも発足し、共に考える仲間も増えました。インターンシップや職場体験も継続的に受け入れ中です。この春から岐阜県内を中心に中高生の探究学習、キャリア教育のサポートを行う、一般社団法人「ココラボ」の理事に就任しました。



Open Innovation Biotope “Tie”
コミュニティマネージャー

北島 かおり

“Tie”が注目しているのは「地域」です。少し堅苦しい言葉で言えば、「地方創生」。私たちは、共創の場で、新しい出会いや繋がり、気付きのお手伝いがしたいと考えています。例えば、2023年6月に実施した「「お茶を淹れる」が生む、クリエイティブ1on1の極意！～メンバーの個性に合った有田焼とともに～」と題したイベントでは、佐賀県の有田町の取組である「CTeaOサービス」に着目し、有田焼振興、窯業の後継者育成と



Open Innovation Biotope “Tie”
コミュニティマネージャー

佐々木 彩

いうミッションを掲げて活躍している地域おこし協力隊の方などをスピーカーにお迎えしたイベントを行いました。「地方創生」や「地域活性化」というと、どうしても何か新しいことをしなければならぬという考えに陥りがちです。私たちは、共創活動を通じて、今ある「まち・ひと・しごと」の特徴や強みはそのままに、おソトの発想や新しい世代を掛け合わせ、これまでのしきたりや文化に捉われない、新しい働き方や暮らし方を生み出していきたいと考えています。



磁器発祥の地、佐賀県有田町で体験！～お茶と器で行う「クリエイティブ1on1」～ 2024.3.15(金)開催

有田焼の産地として世界的にも知られる佐賀県有田町。そんな有田だからこそ生まれた、社内での「クリエイティブ1on1」のきっかけを作るサービスである「CTeaOサービス」。今回は、導入事例紹介や具体的な施策として、お茶と有田焼を使ったコミュニケーション手法を紹介するだけでなく、有田焼の歴史と匠の技に触れられるミニツアー付きのイベントを開催しました。





妄想プロジェクト

日時:2024年10月X日(金)

場所:Open Innovation Biotope "bee"

テーマ:上勝町ゼロ・ウェイストセンターが問いかける「WHY」を考えよう

ゲスト:株式会社 BIG EYE COMPANY 小原 悠未さん (お招きしたい!)

ファシリテーター:「Cue」小倉 悠希 × 「Tie」佐々木 彩

名古屋 × 福岡
共創企画

拠点のコミュニティマネージャーが挑戦した「共創テーマを
探る旅」。お互いWORK MILLに所属はしているけれど、実は
二人きりでのお出かけは初めて。というわけで、多少の緊張と
不安を感じつつスタートした旅でしたが、同じ部屋に泊まり、同じ
ものを食べ、同じ時を過ごすことで、お互いを「知り尽くす」ことが
できたように感じています。これまでは、それぞれの活動を「別個」
のものとして捉えていた節がありますが、この旅を通じて、お互い
がどんな日々を過ごしているのか、どういう想いで仕事をしている
のかを知ることができ「一緒にやりたい・連携したい」という想い
が強くなったし、「具体的な一歩が踏み出せそうだ」という気持ち
が高まりました。また、私たちが近年「サステナブル」という壮大
なテーマに大きな関心を寄せているともあり、お互いの視点や興
味に共感・共鳴し合うような場面が多かったことも印象に残って
います。私たちがこだわるべきは「地域」であり、東京や大阪など
の都市部にはない「地域」の規模感を生かした取組やこだわり、
人の想いに着目した発信を強めて行こうと決意しました。「地域」
だからこそ、できることがある。上勝町がそれを教えてくれました。

小倉 悠希・佐々木 彩

共創

えっ きょう き かく
越境企画



Cue ×



Tie



共創クエスト
Co-Creation QUEST

目的地 | 上勝町(徳島県) ▶ 自然を感じ、暮らしを学び、自然と人が豊かに共生する未来を考える

